

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770402402		
法人名	有限会社 いわき清風苑		
事業所名	グループホーム いわき清風苑		
所在地	福島県いわき市東田町に丁目12番地の2 (電話) 0246-77-1515		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H21.2.6	評価確定日	H21.3.23

【情報提供票より】(平成21年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16 人, 非常勤2 人, 常勤換算16.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 89.1 歳	最低	80 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢吹病院 いがり歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2つのユニットとも1階にあり、災害時にすぐ外に出られるという安全面に配慮した構造である。共有空間や庭も広く、ゆったりと過ごすことができる。また、住宅街の中の公園や商店に隣接しているため、散歩や買物にも便利な環境である。近くにある協力病院が行う訪問診療や訪問看護が、利用者の適切な健康管理に繋がっている。経営者は高齢者福祉について深い関心と理解をもち、職員がやりがいのもてる職場作りにリーダーシップを発揮している。外部評価で改善課題となったことに積極的に取り組む姿勢が見られる。、利用者の平均年齢が90歳(101歳の利用者が2人)という状況の中で、職員は全員で協議して作成した理念を良く理解した上で利用者本位の支援を実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みについては、参加した外部研修の内容や感想をケア会議時に発表し職員間で共有するように改善されている。災害時の地域住民の協力については、区長や近所の方々を訪問し協力を依頼する他、災害時に備えた水や食事を準備するなど、積極的に実際の活動を行った。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 全職員にて評価事業について勉強したうえで職員が分担して自己評価を行い、管理者とユニットリーダーがまとめた。外部評価の結果はケア会議にて報告し、具体的な改善について職員が共通認識を持って取組むようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 利用者家族代表、地域代表、行政、事業所代表をメンバーとして、2ヶ月に1回会議を実施している。主に2ヶ月間の事業所の取り組みや利用者の状況の報告となっている。また、事業所以外のメンバーが3名だけであり意見交換も少なくなりがちである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族へは、毎月1回ホーム新聞及び利用者ごとの生活の様子を書いた報告書を送付し、家族に安心感を持っていただくようにしている。年2回の家族会の際に、家族だけで意見交換できる場を設け、その結果を職員や管理者に伝えてもらい運営に反映できるようにしている。しかし、あまり家族からの意見は出ない状況である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 年3回程度地域住民とともに隣接する公園の清掃や草むしりを職員と利用者が行う他、ホームで行う夏祭りに地域住民へ参加を呼びかけ、地域住民との交流を行っている。また、月2回「傾聴ボランティア」の訪問を受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らすための支援を 実践するため、19年度に理念を全面的に見直 すことにし、職員全員で意見を出し合い「相 互敬愛」「哀歓共有」という事業所独自の理 念をつくっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関ホールに掲示するとともに、職員 のネームプレート裏に理念を記載し身につけ ている。さらに申し送り時に職員同士理念を 音読し、理念を実践できるように努めてい る。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	年3回程度地域住民とともに隣接する公園の 清掃や草むしりを職員と利用者が行う他、 ホームで行う夏祭りに地域住民へ参加を呼び かけ、地域住民との交流を行っている。ま た、月2回「傾聴ボランティア」の訪問を受 け入れている。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	全職員にて評価事業について勉強したうえで 職員が分担して自己評価を行い、管理者とユ ニットリーダーがまとめた。外部評価の結果 はケア会議にて報告し、具体的な改善につい て職員が共通認識を持って取組むようにして いる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者家族代表、地域代表、行政、事業所代表をメンバーとして、2ヶ月に1回会議を実施している。主に2ヶ月間の事業所の取り組みや利用者の状況の報告となっている。また、事業所以外のメンバーが3名だけであり意見交換も少なくなりがちである。</p>		<p>単に報告の場とするのではなく、利用者のサービス向上につながる議題を取り上げ、意見交換を重視してほしい。また、メンバーに地域の学校や保育所関係者、ボランティアなどを加え、多様な立場から活発な意見交換が出来るようにしてほしい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族へは、毎月1回ホーム新聞及び利用者ごとの生活の様子を書いた報告書を送付し、家族に安心感を持っていただくようにしている。金銭管理は、出納帳を家族に提示し家族に確認していただいている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会の際に、家族だけで意見交換できる場を設け、その結果を職員や管理者に伝えてもらい運営に反映できるようにしている。しかし、あまり家族からの意見は出ない状況である。</p>		<p>家族が意見を出しやすくするため、家族会自らが会員である家族へアンケートを行ったり、職員と家族の親睦行事を行うなどして、家族が意見を出しやすい工夫をしてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が2つのユニットの利用者に対応出来る様にするため、必要に応じて半年に1名程度ユニット間で職員異動を実施している。また、職員がユニット間で異動したり離職があった場合は、引継ぎを行い利用者への影響がないように配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験を考慮し、その人にあった外部研修の受講や介護福祉士等の資格取得を進めている。外部研修参加後は、研修内容や感想をケア会議にて他の職員へ伝達し共有している。また、月1回内部研修も実施している。職員を計画的に育成することが現在の課題となっている。		課題や目標を明確にした上で、職員一人ひとりの育成計画を作成し、職員を計画的に育成してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市域及び県域のグループホーム連絡協議会に加入し、事例検討を行う研修や研修会時の職員交流を通じて利用者に対するサービスの質の向上を図るようにしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活のほとんどに支援が必要な方からは、職員の仕事に感謝や励ましの言葉を頂いている。一方、比較的自立度が高い利用者は、得意な事を職員と一緒にやり、その際に職員が感謝の気持ちを伝えている。また、一対一で会話することにより、利用者の思いや悩みを共有するように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での会話や行動・関わりから、利用者本人の生活についての思いや意向を把握している。認知症介護研究・研修東京センター方式を導入し、職員がそれぞれ把握した思いや意向は利用者ごとにまとめている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの日頃の意見や思いを反映できるように、ケア会議にて職員間で話し合い介護計画を作成している。しかし、介護計画を作成する際に介護を実施した結果を評価していないため、利用者の課題に対応する適切な介護計画になっていない場合がある。		介護経過記録に記入すべき内容と記録様式を再検討し、介護計画に基づいた介護経過を記録するようにしてほしい。また、介護を実施した結果を客観的に評価する様式を作成し、評価した結果をもとに介護計画を作成するようにしてほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態に変化があった際には、月に1度行っているケア会議において職員間で話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成をしている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望する医療機関(協力医又はかかりつけ医)の受診ができるよう、家族が付き添えない場合は職員が付き添い、受診支援を行っている。また、2週に1度協力医の訪問診療があるほか、訪問看護の利用も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針は、入居契約時に本人や家族に説明し方針を共有している。また、終末期については医療機関及び家族と事業所を交えた話し合いを行い全員で方針を共有している。さらに、「看取りに関する同意書」を作成し、看取りに関する方針を家族と医療機関と共有することになっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を保護するため、職員は入社時に守秘義務の誓約書を事業所に提出している。利用者のプライバシー保護については、ケア会議にて取り上げ、徹底するようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、無理強いしない等、職員全体で認識を一つにして対応するようにしている。又、利用者との会話を通じて日々の希望を汲み取るよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が相談しながら献立を立てており、出来る利用者には食事の準備や後片付けを手伝ってもらう等、利用者の楽しみとなる様に配慮している。また、職員も利用者と共に食事をしながら、利用者が楽しみながら食事できるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴に対する好みを考慮し、入浴の回数や時間帯等に配慮している。また、入浴を拒否することがあった場合には、無理せず清拭や足浴を行っている。さらに、入浴を拒否する利用者が入浴するようになった事例をもとに職員間で支援方法を検討している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者がやりたい事がある時には、否定せずに自由に行っていただいている。また、洗濯物たたみなど利用者が昔から行っていたことを継続して行うことが出来る環境作りに配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	月1回のドライブの他に近隣の公園の散歩などを日常的に行っている。また、理美容院や買い物等への外出にも希望に応じた支援を行っている。さらに、利用者は気軽に居間からウッドデッキに出ることができるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけないケアの重要性を理解しており、職員は利用者の居場所の確認を常に行っている。現在は、玄関に設置してあるセンサーを使用しなくても鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を行うと共に、災害時に近隣住民の協力を得るため、区長や近所の方々を訪問し協力を依頼した。また、災害時の水や食事を備えている他、近隣の商店で買い物をするようにし、日頃から災害時の協力が得られるように取り組んでいる。		災害時の地域住民の役割を明確にした上で、災害時に地域の人々の協力が得られるように取組んでほしい。また、年2回の避難訓練の他に、利用者や職員が避難方法や身を守る方法を体で覚えるため、毎月隣の公園に避難する訓練を地域住民と共に行って欲しい。
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに水分及び食事摂取量のチェックを行うとともに、利用者によっては医師の処方による栄養補助食品も使用している。また、利用者ごとの食事摂取量や食べる速さを考慮して栄養摂取を支援している。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広く清潔で、食事時には静かな音楽が流れるなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。また、季節を感じられる花を飾ったり、外出時の写真を飾ったりして、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の整理ダンスとベッドはホームにて準備している。それ以外は、使い慣れた物や好きな物を持ち込んでいただけるようにしている。仏壇を持参した利用者は、毎日水やお茶を交換し供養する等、落ち着いた生活ができるように配慮している。		

 は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム いわき清風苑

記入担当者名 今野ゆう子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。